

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 神恵内村.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

■地元の食材、山菜などを使った食事を献立に取り入れている。
■お手伝いなどは、本人の意思を尊重しながら、楽しく続けられる様に行っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JirgvsvoCd=0172300121-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、介護保険制度がスタートした平成12年と最初期に開設された1ユニットで、神恵内村中心部から少し離れた、自然豊かで静かな場所に立地している。職員は介護理念の実現に向け、利用者が出来るだけ自力で、今までと変わらない生活が出来るよう、サポート・見守りに力点を置き、支援している。また、コロナ禍で訪問出来ない事業所の様子をお便りを発行し、写真と共に日常生活や健康面でのコメントなどを、事細かに伝えている。利用者家族の満足度については、事業所としてのコロナ禍での対応、職員の真摯な介護姿勢や季節感ある食材を使った手作りの食事等、配慮ある支援が好評を得ており、アンケート結果にも現れている。現在は相互に自粛傾向であるが、通例では地域密着型サービスの意義を踏まえ、地域とのつながりを重視し、行事への積極的参加や福祉に関する相談に応じる等で、連携を深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、介護理念を黙読し、実践につなげているように努力しています。	事業所の介護理念を目立つ場所に掲示し、職員間で共有している。また、定期的に理念を振り返る機会を設け、質の高いサービスが実践出来るよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年祭り等に参加したり、民謡クラブ等の方々に慰問していただき、交流していたのですが、今年はコロナウイルスのため交流ができていない状況です。	通例では、積極的に地域行事に参加したり、ホームの避難訓練などに協力をお願いする等、相互の協力関係作りに注力している。また、ボランティア等の来訪を受け入れ、地域とのふれあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談を受けた際にはアドバイスをしていきたいと思えます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しております。利用者の状況報告、行事について施設の老朽化に伴う不具合等、質疑応答し意見交換を行っています。	コロナ禍であるが、事業主である村役場の参加・協力を得ながら、定例で開催している。運営状況やヒヤリハット・事故報告、問題点等を挙げ、参加者から意見を求め、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	村役場が事業主であるため連携はとれています。	経営主体が村であり、事業所の状況について定例で報告し、助言を得ながら運営している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1階は診療所との共同玄関であるため、防犯上夜間に鍵をかけています。	身体拘束廃止委員会を設置し、定例で開催している。委員会では、現状の検証を行い、内容について職員間で共有している。不適切なケアと思われる事は、その場で注意し合えるよう、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修が近隣であった際には参加していますが、今年はコロナウイルスのため、研修等も少なからず参加できていない状況です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度が必要とされる利用者はいません。今後、制度的な知識を理解するため勉強して行きたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者のご家族の不安等に適切なアドバイスが出来る様、また納得が得られる様に対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、コロナウイルスのため面会は出来ませんが、電話相談や意見要望があった際には遠慮なく話してもらえる様対応しています。利用者が、不満を訴えた際は少しでも解消出来る様職員と話し合い改善する努力をしています。	本人・家族が意見・要望を話しやすい関係作りを心掛けている。感染防止に留意・工夫しながら、面会も弾力的に再開しており、コロナ禍であっても自由に話せる環境作りに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や要望は出来るだけ聞くよう心掛けています。	職員会議や申し送りの場で、職員が自由に意見を述べる機会があり、介護姿勢や業務の改善に活かしている。管理者は、随時相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力していると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は出来るだけ参加したいと思っていますが、外部研修が少なく、又今年はコロナウイルスのためあまり参加できない状況です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	村内の、他の施設で研修等があった際には参加しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています	本人とコミュニケーションを取り、困っている事、不安な事は聞き、又職員間で情報を交換し信頼関係を築く様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安な事、要望があれば聞いています。又、本人に合わせた対応についても話し合っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族に本人の現状を伝え理解して頂き、ご家族の意見等を聞き支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で、利用者が出来る事は手伝って頂いています。昔ながらの料理は教えて頂いたり作って頂いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、コロナウイルスのため面会は出来ませんが、家族が来られた際や電話等があった際は、日々の出来事や気付きの情報を提供して、本人を支えるためお互い協力し合い、利用者がよりよく過ごせる様支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス流行のため面会出来ませんでした。が1月より人数体調等の確認を行いドア越しに面会を開始します。	通例では、家族、知人の来訪時には居室などでゆっくり過ごしてもらえるよう配慮している。現在は写真入りの便りの他、ガラス越しなど面会方法を検討し、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は把握しています。各居室に、訪室し会話を楽しまれております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近くの施設に移動された際は、顔を見る機会があるので関わる事ができます。相談等があれば対応したいと思っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話を通し、思いや希望を見出しています。又、言葉だけではなく表情や様子からも汲み取り、意向に沿う様に把握し努めております。	日々の生活状況に注目するとともに、言葉や習慣等を観察し、思いを汲み取って、それらの意向を職員相互が共有し、支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴に関する情報を、本人と家族から教えて頂き1日の過ごし方や趣味等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状況や状態を確認し、変化があればその都度口答で伝えたり、記録を残し、職員で情報を共有しケアに繋げています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者、担当職員を中心にモニタリングを行い、他職員と話し合い気付いた事や情報をもとに、介護方法や方向性について話し合っています。	職員相互で日々のモニタリング結果を検証し、本人・家族の要望や職員、医療機関の意見を反映した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に日々の様子や、排泄、食事、水分等を記録しています。介護計画見直しの際も、記録と職員の情報を踏まえ作成します。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況に応じて通院、外出等柔軟に対応しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物等、可能な限り出掛けていましたが、今年はコロナウイルスのため出掛けられません。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関を確保しており、基本月1回受診、休診の際は、協力施設の医師に連絡をし指示を受けています。受診時には、家族、または職員が同行し状態を把握しています。	かかりつけ医は利用者と家族の意向で決定している。協力医療機関からの助言を得て、体調面・支援方法について職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情の変化に注意し、早朝発見に取り組んでいます。変化に気付いた時は、病院の看護師に電話等で相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供しており関係作りを行っています。回復状況等を、医療機関や家族に確認しながら情報交換を行っており、退院後の支援につなげています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	重度化や週末期については、その時点で家族を交えて話し合いを行い、できるだけ意向に沿うようにしています。	契約時に事業所の指針を説明し、状況に合わせて意向の再確認を行っている。協力医療機関、家族と共に終末期を支えるための話し合いを重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の、応急処置マニュアルがあり職員に周知しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い意見等を頂き活用しています。近隣の施設にも、協力要請をして承諾を頂いています。	消防署の指導による避難訓練の他、自然災害を含めた自主避難訓練も行っている。緊急持出し用の避難グッズや備蓄品等は定期的に確認、整備されている。	災害時の避難場所について、事業所の考えを定期的に家族に周知する事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、その人に合った言葉かけを心掛けています。居室に入る際は、心掛けをして了承を得る様にしています。	職員は主に接遇について、具体例を挙げながら日々注意し、相互にチェックすることで、尊厳ある対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中から、本人の思いを引き出すような声掛けをしています。誕生日メニューを決める際等、本人の希望を聞き反映しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはある程度決まっていますが、状況に合わせて自分のペースで過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や外出等の身だしなみに配慮し、毛染めは希望がある時に職員が行っています。散髪は、訪問サービスを利用しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれの能力に応じて、できる事をして頂いており、職員と一緒に going to しています。以前は職員と一緒に食事をしておりましたが、コロナ感染予防の為、今は中止しています。好きな物や季節の食材の事等を話し、メニューに取り入れております。	嗜好を聞き取り、取り入れた食事は、季節感、彩りあるものとなっている。現在はコロナ感染防止に留意し、食事準備の手伝いを最小限で行なってもらい、支援している。通例では、職員と同席同食を原則として、楽しみある食事の場としている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量、水分量は個人日誌に記録しており、本人の嗜好を取り入れながら野菜中心で栄養が偏らない様、バランスの良い献立を考えながら作成しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声掛けや見守りをし、出来ない方は、食事後口腔内ケアやチェックをし、義歯の洗浄、衛生を行っています。夜間は、義歯洗浄剤につけ毎食後の歯磨きも実施しています。週1回歯科衛生士が、口腔ケアを実施していますが、現在はコロナウイルス感染防止のため休んでいます。歯科衛生士と相談しながら再開する予定です。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、トイレでの排泄を大切に、紙パンツ、パッド等本人に合わせ検討しています。尿意、便意の訴えがない利用者でも出来るだけトイレで排泄が出来る様支援しています。	個々のタイミングを職員間で把握し、声掛けに工夫しながらトイレへの誘導を行っている。羞恥心に配慮しながら、出来るだけ自力で行えるよう見守り、支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然に排便が出来る様、繊維質が多い食事を心掛け、こまめに水分補給をして頂き軽い運動も取り入れています。			
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に週2回ではありますが、希望があれば毎日入浴が出来ます。	毎日お湯はりを行い、週2回以上の入浴対応に努めている。個々の心身の状況や希望に応じて、楽しんで入浴出来るよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせて居室や食堂で休んで頂き、夜は居室を好みの明るさにして安心して寝られるよう支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護記録に処方箋を添付し、薬の効果、用量等把握できるようにしています。服薬の確認もきちんと行っています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	初春には竹の子やフキの皮むきなどを利用者様と共に行い、懐かしい話などを楽しみながら、昔に作ったお料理を聞きながら、実践しました。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年、コロナウイルス感染防止のため出掛けられていない状況です。	通例では、個別に声がけし、日課として出歩くように努め、近隣へ買い物やドライブに出かけている。コロナ禍により外出が難しい現在は、事業所敷地内での外気浴など行い、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が持ちたいと希望の方は、家族との話し合いのもと自己管理して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が自由に電話をかけられる様にしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度に注意し、濡れタオルやペットボトルに水を入れて加湿器代わりにしたり工夫しています。又、花をベランダや食堂に飾り匂いや視覚で季節を感じて頂ける様工夫しています。	陽当たりの良い居間を中心に、和める雰囲気づくりに留意して、寛げる備品の配置や季節感に合わせた飾り付けをしている。また、温・湿度の管理や換気など健康に配慮した場所としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファやイスを置き、利用者同士が腰をかけながら会話したり、気分転換ができるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や装飾品を持ってきて頂いたり、テレビ等を置いて居心地良く過ごせる様工夫しています。	家族の協力を得て、本人の馴染みある備品や家具、写真等が飾られている。心身の状況に合わせ、不安なく過ごせる生活環境となるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間でも迷わず、トイレに行ける様廊下の照明をつけたままで、居室入り口には表札やぬいぐるみ等をつるし目印にしています。		